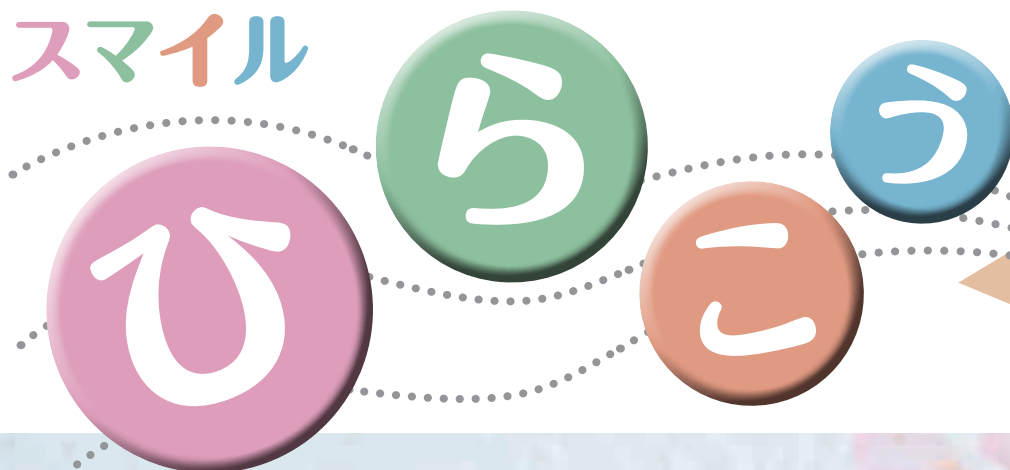


スマイル



2026

冬



新年のご挨拶

特集

「ひらこダイアフェス 2025」開催しました！

HCU/CCU病棟について／認定看護師通信 vol.74





新年のご挨拶を申し上げます



枚方公済病院 院長
木村 剛

皆様、新年明けましておめでとうございます。

病院長として枚方公済病院に着任して早くも3年9ヵ月が経過し、新たな年を迎えました。令和7年も病院にとって非常に厳しい年でした。物価上昇や賃上げに対応出来ない診療報酬が多くの病院の経営を苦しめており、令和8年度の診療報酬改訂が病院に対して優しいものであることを切に願いますが、我々は自らの努力で生き残りを計らなければなりません。支出削減、医療DXによる業務効率化などの経営努力は勿論必要なのですが、病院が生き残る鍵はそこにはないと考えます。生き残りのために最も重要なことは、「地域にとってなくてはならない病院」として存在感を高めることだと考えます。

枚方公済病院は重症救急患者の受け入れなどで、現在でも「地域にとってなくてはならない病院」とであると自負しておりますが、それでもまだまだ発展途上の病院です。我々は「生き残る」というだけではなく、将来の発展を目指してこの経営危機を乗り越えなければならないと考えています。

職員には、今後、目指すべき病院の姿として、「良質の医療」、「受診しやすく紹介しやすい病院」、「地域の総合病院として出来ない診療を減らす」ことを掲げております。良質の医療については、昨年末の病院機能評価でも非常に高いご評価をいただきましたし、診療にはこれまで通りの姿勢で臨むことで概ね良いかと考えます。受診しやすく紹介しやすい病院については、昨年9月より初診紹介患者受付時間を14:00まで延長し、急ぎで診るべき患者をご紹介いただきやすいようにしておりますが、今後も種々の工夫をしていきたいところです。出来ない診療を減らすことは、当院にとって最大の課題です。ここではいくつかの診療科の専門医拡充で診療体制を整えることが必須です。それでも昨年度は悪性腫瘍の手術件数が300例ほどとなり、今年度は大阪府がん診療拠点病院の申請を予定しております。癌診療においても地域から頼られる病院になりたいと考えております。

この2年間続いた経営危機の中でどうしても小手先の対策に手を出してしまいそうになるのですが、困難でも長期を見据えた計画を立て、その実現のために弛まぬ努力を続けることが肝要であると自分に言い聞かせております。昨年3月から新棟の工事が始まっております。老朽化した3号館病棟、透析室、リハビリ室、医局、厨房などが新しくなります。新棟が竣工する令和9年秋には診療体制も整えて、文字通り「地域にとってなくてはならない病院」として機能させたいと願っております。

新年の御挨拶が大変重たいお話しになってしまったことを御容赦下さい。本年も職員は一丸となって頑張りますので、枚方公済病院に一層の御指導、御鞭撻を宜しく申し上げます。



副院長（看護部長）

畑 幸枝

んに合った看護を提供できるように努力しています。

外来では認知症看護外来、ストマ外来、慢性心不全などの療養支援、がんサロンを開催しました。今年は緩和ケアの認定看護師も誕生しました。がん薬物療法認定看護師とともにがん看護の充実に努めたいと思っています。

院外活動では地域住民を対象とした「健康フェア」、病院・訪問看護ステーション・施設の看護師を対象とした「CV ポート研修」や「認知症認定看護師による市民や後見人向けの講座、大潤会地域包括支援センターとの共催による認知症オレンジカフェを行い、多くの方に参加していただくことができました。

地域に根ざした急性期病院として、「選ばれる看護部」となれるよう努力して参りますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域連携患者さん支援センター長

片岡 宏

みても 80 歳以上の高齢者が多くを占めており、高齢化率の高い地域に該当します。このため高齢者患者さんの急性期治療がいったん完了した後の療養をどのように計画するかも近年の課題です。近隣の介護施設での看取りや在宅療養の対応力も年々向上しておられることから以前よりは療養先の選定、退院支援の円滑化は図れていると思います。今後も地域の医師の先生方、訪問看護師、施設職員、ケアマネージャーさんらの御力は必須です。無理なお願いやご負担かけることあるかと思いますが引き続きのご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

まだまだ困難な経営環境の中、「地域に必要とされる病院」として存続していくべく、本年も一層のご鞭撻、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

当院看護部では安全かつ安楽に入院生活を送っていただけるように心掛けてきました。昨年 4 月から Rapid Response System（院内迅速対応システム）が起動しました。これは、多くの「急変」には前兆があるという点に着目し、致死性の急変を未然に防ごうとする院内対応システムです。患者さんが通常と違う症状が見られたときにクリティカルケア認定看護師や特定行為研修終了看護師が中心となり必要に応じて医師に指示を仰ぎ、迅速に対応しています。

平均在院日数が短縮される中、安心して住み慣れた地域に戻ることができるよう入院当初から退院支援を行ってきました。3 病棟ではありますが、専従で退院支援を行う看護師を配置、医療と生活の両方の視点を持って患者さん、ご家族をサポートできるよう窓口を一本化しました。

高齢社会を反映し認知症患者も増加しています。一般病床すべてに「眠りスキャン」を導入、個々の患者さんの睡眠状態を睡眠日誌で確認し、より患者さん

平素より枚方公済病院の診療にご協力、ご指導ありがとうございます。コロナ禍後、当院もご多分にもれず厳しい経営環境の中ではありますが、基幹病院として地域貢献することを患者さん支援センターとしても目指してきました。

昨年、令和 7 年には地域に必要とされる病院としての存在意義を確立すべく、循環器を中心とした患者さんに加えて、呼吸器内科、外科の常勤医師に赴任いただき呼吸器診療の充実をはかっています。従前は呼吸器科の常勤医師不在で、重症肺炎や早期に気管支鏡検査が必要な肺腫瘍の患者さんなどを患者さん支援センター通じて地域の先生方から紹介いただきながら当院での受け入れができずご不便をきたすこともありました。今後は可能な限り当院で診療させていただけるよう尽力して参ります。また外科系、皮膚科、消化器内科など含めての悪性腫瘍の治療件数も増加しており、がん拠点病院の申請にむけての要件も整いつつあるのでさらに診療の幅を広げていけることを期待しています。

地域の基幹病院として一定レベル以上の医療を提供すること以外に、地域特有の要請に応じることも重要と考えています。当院救急受診患者さんの割合を

「ひらこーダイアフェス 2025」開催しました！

皆さんは11月14日が何の日かご存じですか？11月14日は「ワールドダイアベティスデー（世界糖尿病デー）」として2006年に国連に認定され、世界中で糖尿病の予防と啓発を目的としたイベントが世界中で実施されています。日本においても大阪城をはじめとした主要なモニュメントがブルーにライトアップされる（ブルーは糖尿病を象徴する色で、国連のシンボルカラーでもあります）など全国的な啓発活動が実施されています。当院でも、糖尿病のある方でもない方でも、当院通院中の方でも、地域住民の方も対象に、「楽しく学ぶ」をテーマに「ひらこーダイアフェス」と称するイベントを開催しています。普段から糖尿病治療・ケアに従事しているチームが中心となって、それぞれ工夫を凝らした催しを展開しています。射的コーナーもあり、お祭り気分が高まります。

今年の「ひらこーダイアフェス 2025」は、11月11日に当院で開催されました。内容は以下の通りです。各ブースをスタンプラリー形式で自由に周回していただき、参加された方にはオリジナルの缶バッジと様々な健康グッズをプレゼントしました。

展示・体験

1. 医師（内分泌代謝内科）ミニレクチャー
「あなたの知らない糖尿病の世界」
2. 医師（循環器内科）ミニレクチャー
「心臓リハビリテーションを知っていますか？
～心臓病でも健康長寿を目指そう～」
3. 医師（消化器内科）ポスター展示&クイズ
「脂肪肝のエコーチェックと肝臓病クイズ」
4. 臨床検査技師 腹部 or 頸動脈エコー
「隠れた脂肪をエコーで発見！」
5. 看護師 フットケア
「自分の足をよく見てみよう」
6. 認知症サポートチーム 笑いヨガ
「笑いヨガ！（お試し編）」
7. 理学療法士 体操実演
「ロコモチェック&ひらかた体操！」
8. 管理栄養士 栄養相談・美食
「気軽に栄養相談&スペシャルデザート付き！」
9. 薬剤師 相談ブース・血糖測定体験
「おくすり相談室&血糖測定体験会」
10. 特別企画
「きかせてあなたの夢」
11. 射的



今年は糖尿病チーム以外にも、循環器科、消化器内科医師、認知症サポートチームからも参加していただきました。「きかせてあなたの夢」コーナーでは、皆さんの「夢」を貼っていただき、大きなポスターを完成してもらいました。

参加者に実施したアンケート調査によると、53名から回答が得られました。枚方市からお越しの方は53%、糖尿病と言われている方は29%、言われていない方は65%でした。92%の方が本イベントは「役に立った」と回答されました。96%の方が本イベントは枚方公済病院のイメージアップにつながると回答されました。

ご参加いただきました皆様も、そして運営にあたったスタッフも楽しくにぎやかに過ごしている姿が印象的でした。これは当院が大切にしているもの、目指していく方向性をよく表していると思います。今後は様々な診療科や医療チームにも呼び掛けて、病院全体のイベントにしていきたいと思っておりますので、皆様にも参加していただき、育てていただけましたら幸いです。

最後に、どんな病気であっても、なりたくてなった人はいません。病気の原因を、個人の資質や能力の問題として言及することは医学的に正しくありませんし、差別的ですらありますので許容できません。糖尿病は食べ過ぎや不摂生が原因の病気ではありません。このような誤解や偏見、差別を撲滅するために、JADEC（日本糖尿病協会）と日本糖尿病学会は国際的に広く用いられている「ダイアベティス」という呼称に変更することを提唱しています。内分泌代謝内科でも本活動に賛同し、糖尿病チームを「ダイアチーム」と称して治療とケアに取り組めます。



内分泌代謝内科部長
糖尿病センター長
田中 永昭

HCU / CCU 病棟について

HCU/CCU では、心筋梗塞、心不全などの循環器疾患や呼吸器、消化器、泌尿器科などをはじめとする様々な疾患の重症患者、また心臓、脳、消化器、泌尿器科などの術後患者を受け入れて治療、看護にあたっています。

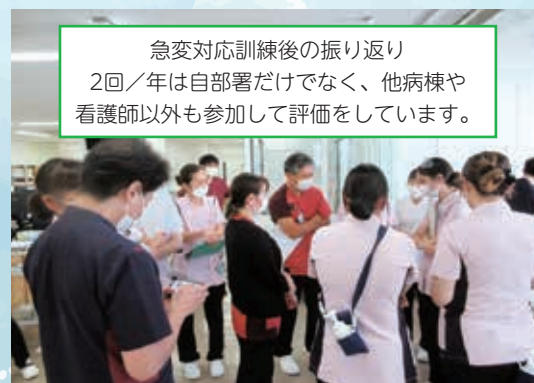
HCU/CCU では多職種が協働して治療を行い、早期回復に努めています。その活動の1つとして、毎朝多職種カンファレンスを開催し、患者1人1人に対して方針を話し合っています。カンファレンスでは、看護師が患者のプレゼンを行いその後、医師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床工学技士、メディエーターなど各専門職種の立場で意見を述べて治療方針を検討していきます。他にも、ICT（感染防御チーム）やDST（認知症ケアサポートチーム）、皮膚・排泄ケアなどの専門チームとの連携も行っています。また、認定看護師や特定看護師も在籍しており、専門性の高い支援を行い患者の早期回復へ貢献しています。

昨年度より、クリティカルケア認定看護師を中心にRRS（院内迅速対応システム）の取り組みを開始し、HCU/CCU スタッフが病棟から要請があった際に初期対応を行っています。また、要請を待つだけでなく各病棟をラウンドしてスタッフに声をかけるようにし

ており、病棟看護師が連絡していいか判断に迷うような症例をキャッチすることにもつながっています。他にも、HCU/CCU を退室した翌日の患者やカテコラミン使用患者などのもとへ訪室し、状態観察を行い必要に応じて医師への報告や、ケアの提案なども行っています。

急変リスクの多い部署であるため、日々急変対応の訓練にも力を入れて取り組んでいます。新人からベテランまで経験年数は様々であり、基本的な技術の習得から実際の急変時を想定した様々なシナリオに沿った訓練を積み重ねています。皆、真剣に取り組む訓練のたびに評価を行い、振り返りを行っています。

HCU/CCU 病棟師長 原谷 こずえ





認定看護師の豆知識



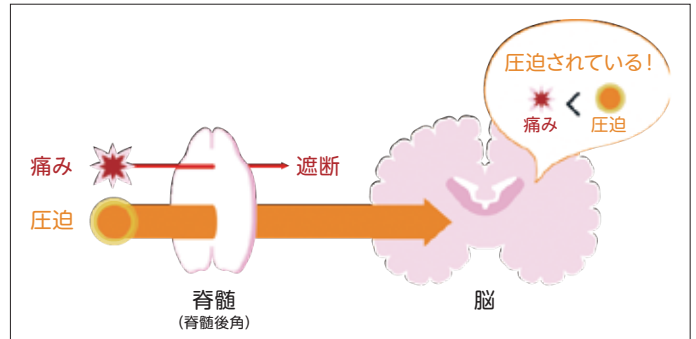
疼痛の緩和：ゲートコントロール理論

みなさん、ゲートコントロール理論という言葉聞いたことはありますか？

おそらく馴染みのない方がほとんどだと思いますが、実際には知らず知らず使っている理論になります。どんなものかという、痛みの神経より圧触覚神経の方が太いため、速くて強い刺激（電気信号）

を脳に届けやすくなります。そのため、痛いところに手を押さえてあげると、脳は【信号の弱い痛覚】より、【信号の強い圧触覚】の刺激を感知するので、痛みが和らぐという理論です。

わかりやすい例でいうと、『腹痛の訴えに対して腹部をさすったり温罨法を施行することで、腹痛の程度が改善する』といった場面が挙げられます。名前は知られていませんが、使い所によっては有用理論ですので、頭の片隅に置いておいてもらえると幸いです。



緩和ケア認定看護師 藤原 大樹

..... 各分野認定看護師

クリティカルケア：村上／恒吉
 慢性心不全看護：原谷
 感染管理：篠原／濱崎
 集中ケア：水本
 皮膚・排泄ケア：大西／近藤

認知症看護：藤原(則)／佐藤
 嚥下・摂食障害看護：日向
 がん薬物療法看護：多賀
 緩和ケア：藤原(大)



理念と基本方針

理念

医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。今年は60年に1度の丙午の年です。情熱や行動力が高まり、勢いのある1年になると言われています。私も仕事に情熱を持って取り組んで参りたいと思います。連携室といたしましても行動力を高め、より一層皆様のお役に立てるよう努めて参ります。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

地域医療連携室 中島 慶子



交通のご案内

JRをご利用の場合

【電車】JR 学研都市線長尾駅下車 徒歩 10 分

【バス】長尾駅から京阪バス枚方市駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

【電車】JR 学研都市線藤阪駅下車 徒歩 10 分

【バス】藤阪駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

京阪電車をご利用の場合

【電車】京阪本線枚方市駅下車（京阪バス南口から長尾駅行）

【バス】枚方市駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院
地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院



※病院ホームページ

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<https://hirakoh.kkr.or.jp/>